

H20 年度第 3 回（通算第 21 回）科学計測専門部会議事録（案）

日時：2009 年 2 月 16 日（月） 10：30～17：30

場所：海洋研究開発機構東京事務所 セミナー室 A・B

出席者

部会長：石橋純一郎(九州大学)

専門部会委員：石塚治(産業技術総合研究所) 岩井雅夫(高知大学[古生物共同 WG 長]) 岡田誠(茨城大学) 小田啓邦(産業技術総合研究所) 河瀨俊吾(横浜国立大学) 坂井三郎(海洋研究開発機構) 廣瀬丈洋(海洋研究開発機構) 諸野祐樹(海洋研究開発機構)

STP 委員：斎藤実篤(海洋研究開発機構) 成瀬元(千葉大学) 布浦拓郎(海洋研究開発機構) 林為人(海洋研究開発機構[非破壊計測共同 WG 長])

孔内計測 WG：中村恭之(東京大学海洋研究所／共同 WG 長) 佐藤 暢(専修大学／共同 WG 長)

非破壊計測 WG：池原研(産業技術総合研究所／共同 WG 長)

IO[JAMSTEC/CDEX]：江口暢久 Moe Kyaw Thu 五十嵐千秋

事務局：梅津慶太 増田由衣

欠席者

専門部会委員：木村浩之(静岡大学), 山中寿朗(岡山大学)

STP 委員：池原実(高知大学海洋コア総合研究センター[IODP 部会・執行部会担当者])

技術開発推進専門部会：佐野修(東京大学地震研究所)

1. 開会の辞（部会委員河瀨さん、CDEX 五十嵐さん紹介：書記指名：石塚）
2. 配付資料確認 [事務局]・議事次第確認 [部会長]

報告事項

3. 議事録確認 [部会長]

4. IODP/J-DESC 報告 [部会長・事務局]

1) INVEST 会議状況報告

・2 / 15 に全体 WS があつたこと、4 月から国際会議の登録が開始する予定であることが報告された。

2) コアスクール

・3/14-17 の日程でコア解析基礎コースを高知コアセンターで実施予定。参加申込者現在 11 名で追加募集中。

5. CDEX 報告 [CDEX 江口]

ちきゅう：神戸でスラスト修理終了、2 / 1 5 ドック出航、テスト航海へ（熊野灘、駿河湾、50-60m 程度の掘削等予定）。5 月より expedition 開始。319.322staffing ほぼ完了。2 / 1 5 に神戸でオープンハウス、9 0 0 0 人参加。

J R：オントンジャワでテスト実施（グアムーホノルル）。

6. 非破壊計測 WG 活動報告 [池原研共同WG長] 資料6

・2 期 4 年間の総括活動報告があった。今年度は特に活動がなく、任務達成したと考えられるので、今年度末で終了としたい旨提案があった。部会長より、任務遂行に関し謝意が示され、終了することに関して合意が得られた。

・CDEX 江口氏より、来年度航海終了後にラボ活動の報告を部会に提出するので、その際に、**measurement manual**（旧クックブック）の改訂部分の検討について協力してほしい旨の発言があった。検討の場について議論し、専門部会部員を中心に必要であればより専門が近い研究者の協力を加える形で検討する方針を確認した。

7. 孔内計測 WG 報告 [中村恭共同 WG 長]

・泥水計測関係で 1 名 NANTRO 航海に乗船を推薦した。プレクルーズトレーニングについては検討中。

・次年度のコアスクールロギングコースは 1 0 月下旬以降開催予定。基礎コース、アドバンストコースの両面で検討をしている。

・斉藤氏より孔内計測 WG へ、NANTRO 航海について、プレクルーズトレーニングとしてのロギングスクール開催の可能性について打診があり議論した。CDEX と乗船研究者の間で行う方式がありうることも含めて検討をしたい。

・斉藤氏より孔内計測 WG へ、: NANTRO 航海について、プレクルーズトレーニングを企画。カッティングスについてトレーニングに関して、孔内計測 WG の協力を求めたい。

J-DESC のトレーニングコースと連携を模索。

8. 古生物 WG 報告（岩井）：資料 議事要録

・陸上、船上の支援体制の検討、乗船マニュアル古生物編作成などの活動報告があった。

・マニュアルの取り扱いに関して、著作権のある図版の使用についてどのように対応するかを議論し、まず内々の文書として作成し、公表、頒布する段階になって個々の対応がどれぐらい大変かを見ながら対処を考える方向で進めるという認識に至った。

検討事項

9. STP meeting 事前打ち合わせ (齊藤 [STP Vice Chair])

- ・ agenda の説明があった。JR の装備 (Magnetmeter が船上にないことなど) についてチェックする必要があることが確認された。

10. STP ロードマップについて

(1) EDP 報告および EDP との連携について (齊藤 [STP Vice Chair])

前回 EDP 会議 (#08 at Shanghai, 2009/01) に出席した際の報告があった。ロードマップ作成およびその進展において EDP と STP が連携を進めることが確認されたのを受けて STP リエゾンとして出席したものである。

- ・ STP からの要請で EDP 内に設置された Contamination issue WG ではあまり議論に進展がないことが報告された。

- ・ EDP において報告された STP ロードマップ作成の経過報告の内容が、報告された。STP の複数の分野から上がっている項目の多くは、EDP でも開発すべき技術項目としてロードマップにリストアップされていることが確認され、連携の必要性が再確認された旨の説明があった。

- ・ 中でも「コア回収率の向上とコア品質向上」の問題は、この連携によって改善に向かって前進することが期待される課題としてとらえられ、この問題の事例集を作成することが STP に要請された (EDP Consensus 0901-11) ことの報告があった。

(2) Core recovery and quality issue 事例集作成について

- ・ 事例集作成の要請があったこと背景として、EDP でしばしば議論される平均回収率の数字はあまり意味がなく科学的に Critical な部分の回収率向上が必要とされるという認識を齊藤氏より説明された。

- ・ 対象とする岩相 (あるいはコアリング法)、現状 (できれば根拠資料)、科学的障害、考えられる対処法案の各項目をセットにしてまとめることが確認され、以下の個別の案件についてそれぞれ議論した。

残留磁化, コアコンタミネーション, 断層破碎帯, 白亜紀堆積物, sheeted dyke complex, porous reef limestone, turbidite/siliciclastic sequences, 熱水変質帯

それぞれの項目について、A4 半ページから 1 ページにまとめて、齊藤氏に提出する (ㄨ 切り 2 月 23 日)。

(3) ロードマップ改訂について

- ・ 各分科会とりまとめ状況の報告 (Petrophysics: 林氏、Core description: 成瀬氏、Chemistry and microbiology: 布浦氏) があった。

- ・ 重要項目のおさらいをして、以下の意見を確認した。

- ・ ST15 formation fluids: Chemistry and Microbiology でも検討を行う。

- ・ST31 Deep penetration: Drilling in deep water も付け加える。
- ・ST40 formation factor: microbiology とのリンクを検討する。
- ・ST5 non-magnetic core barrel: negative なコメントをなくす努力をする。

遅くとも2月中に取りまとめ結果をメールで回覧して再確認する。

1 1. ED プロポーザルへの対応

- ・技術開発専門部会から、ED プロポーザルの現状と日本発のプロポーザル育成に関する要請があった旨を斎藤氏より報告があった。
- ・小田氏より、Development of SQUID scanner for continuous monitoring of coring induced magnetization の提案があった。内容的には有望であること、詳細をつめる必要があることなどを議論した。
- ・成瀬氏より、堆積物の粒径分布の画像解析ソフト開発の提案があった。ソフトウェアも提案対象になりうるのかについて、技術開発専門部会へ確認する。

その他案件

1 2. STP・専門部会委員のローテーションについて [部会長]

- ・布浦氏が次回 STP (ハワイ) で退任予定であること、後任委員として微生物関係分野の科学者が要請されている旨、斎藤氏より説明があった。
- ・後任として諸野祐樹部会員を推薦することを、満場一致で決定した。
- ・諸野氏の STP 委員就任、木村氏の海外留学に伴って、微生物関係分野の部会員が不在となる現状が確認されて後任委員の推薦について議論した。

1 3. 次回開催日程について[部会長]

2009年4月3日開催を軸に調整する。

実行／提言／合意項目

- 項目1：非破壊計測WG活動
- 項目2：クルーズ直前トレーニングのあり方
- 項目3：コア回収問題事例集の作成 (2/23^〆切)
- 項目4：ED プロポーザルへの対応
- 項目5：次期 STP 委員候補の推薦

実行項目 0809-05 (継続) : Scientific Technology Roadmap への対応 (2/27^〆切)